

W2-6 東京医科歯科大学に集積する潜水に関わる医学的問題点

外川誠一郎¹⁾ 山見信夫¹⁾ 柳下和慶¹⁾

金剛寺純子¹⁾ 芝山正治²⁾ 中山晴美³⁾

中山 徹¹⁾ 眞野喜洋¹⁾

- | |
|------------------------|
| 1) 東京医科歯科大学附属病院 高気圧治療部 |
| 2) 駒沢女子大学 人文学部 |
| 3) はるみクリニック |

医科歯科大学高気圧治療部には日本中の様々なダイバーが集まり、潜水に関する多種多様の情報が集積され、時には医療と関係のない問題まで我々に提起されることさえある。今回当施設を受診した患者より得た情報をもとに、以下のような潜水と医療に関わる様々な問題点を呈示してみたい。

1. 八丈島における航空機搭乗当日の潜水の妥当性

八丈島一羽田間の航空機は比較的低空を飛行することから、航空機搭乗する当日にも潜水が可能であると現地のガイドが説明している点の妥当性について。

2. インストラクターの自己の経験をもとにしたダイバーへの誤った助言

潜水後に急浮上しても減圧症にならなかったという自己経験を基に、引率ダイバーを急浮上させて減圧症を発症させたガイドの存在。また、やはり自己の経験より減圧症になるはずがない潜水プロフィールと思い込み、減圧症を発症したダイバーに医療機関への受診が不要と助言してしまうインストラクターの多い点について。

3. 現存する無謀なダイバー

近年無謀な潜水をするダイバーは減少しているが、通常のスクーバ潜水で80mを超え更にエアークレをおこして急浮上したダイバーがいまだに存在している点。

4. DDNetと減圧症医療機関の問題点

減圧症治療の経験がないと思われる医療機関が、減圧症患者の治療を障害を残した不十分なもので終わらせ、その後の潜水に対して不適切な指導をする点。